

# 人・モノ・カネが行き交う情報の十字路口 姫路

東西に山陽道、室津道、南北に但馬道、美作道、巡礼道——。姫路は古くから交通の結節点でした。地方で東西南北にこれほど多く主要街道が走っていたところは、全国でも他に例がありません。

## 山陽道

もともとは近畿と北九州を結ぶ官道として整備された律令国家最大の幹線道でした。近世になると西国街道と呼ばれるようになり、参勤交代の大名行列や荷物を運ぶ飛脚、行商人などが盛んに行き来する五街道に次ぐ重要な街道でした。時代によって異なりますが、姫路市の南部を横断し、現在の国道2号と重なるか、並行して走っています。街道沿いには名所・旧跡が数多く残っています。

## 美作道・因幡街道

古代から美作・播磨の鉄を畿内に運ぶための重要な道でした。近世の美作道は山陽道から下手野で分岐し、飾西・髯崎・千本・三日月・佐用宿を経て美作へ、土居・勝又宿を通過して津山城下に入っていました。さらに太田井迫分(佐用町)で因幡(鳥取)へ向かう因幡街道と分岐しています。現在の国道29号、たつの市新宮町以西の国道179号は、かつての美作道とおおよそ重なっています。

## 但馬道(生野道・馬車道)

市川沿いに姫路から但馬へ向かう南北の道は、古くから但馬道(生野道)と呼ばれていました。もともとは市川の右岸、現在のJR播但線に沿う道でしたが、明治時代に生野銀山から効率的に銀を運ぶ日本初の高速度路「生野鉱山寮馬車道」として市川の左岸に整備されました。馬車道は現在の国道312号に並行または重複しています。

## 室津道

摂播五泊の一つで、姫路と古代から重要な港だった室津を結ぶ道です。道幅は6尺(約1.8m)、広い所でも9尺(約2.7m)と狭く、曲がり角も多かったためか、多くの道標が残っています。姫路城下西側で西国街道と分岐し、西土井で北路と南路に分かれ、それぞれ網干を経てたつの市に入ります。

## 巡礼道

西国三十三所を巡礼する人々が通った道。兵庫県内には第24番札所中山寺(宝塚市)、第25番札所播州清水寺(加東市)、第26番札所一乗寺(加西市)、第27番札所円教寺(姫路市)の4カ所があり、第28番札所成相寺(京都府)へとつながっています。巡礼道の経路は、一乗寺から姫路城下までは現在の国道372号と並行または重複し、円教寺から成相寺へは現在の県道67号と並行または重複しています。

## その他の道

- 浜街道 室津道の南路からそのまま海側を走り、高砂に向かう道です。八家地蔵を示す道標などが残り、名所を訪ねて多くの旅人が訪れました。
- 有馬道(有馬街道・湯の山街道) 姫路から三木に向かう道です。三木合戦の折に、羽柴(豊臣)秀吉が京都と有馬温泉を結ぶ道を三木まで延長整備したことにより、京都、有馬、三木、姫路がつながり、京都から姫路までの最短ルートとなったと伝えられます。

